

に、篠井雅樂助知行高千石、歳二十五とあり。本多家士の第一に載せたり。

○眞行寺開山州岩傳話

眞行寺開基州岩和尚、寛永十五年正月十二日寂す。右州岩往昔一庵を結んで眞行寺と名付け、托鉢等を以て是を守る。此の僧雲水なるが故に開山となる事能はず。仍つて大乘寺謙室和尚へ眞行の寺號を進上して開山を乞へり。謙室喜びて公裁を経て開山と成る。是より始めて此の寺法地となる。州岩開基の功をなす故に和尚の號を授くといへども、實は雲水也。歴世は大和尚とあり。州山は大字なし。一説に州岩は尼也と云ふ。併し寺録に見えず。又其の號に比丘尼或は某尼和尚なども無ければ、證とし難しと云々。右の傳説は眞行寺記録に載之。龜尾記には、秀頼公の臣木村長門守重成の娘、長屋平太夫に嫁す。夫歿後加州へ來り尼となり、眞行院と號し、庵室を造立して居住す。是眞行寺の開祖にて、眞行寺の寺號は元と眞行院なりと云ふ。とあり。平次按ずるに、長屋系圖に、元祖平左衛門某、文祿二年利長卿被召出、千四百石賜之、寛永八年死去、二代

七郎右衛門慶長八年被召出、二百石賜之、後千二百石拜領、馬廻組頭相勤、寛永十六年死去。妻木村長門守女とあり。長屋氏は即ち眞行寺の檀家にて、過去帳に木村長門守夫婦の法號を記載し、長屋氏二代妻承應三年十二月廿四日蓮成院海岩了性大姉と載せたり。是木村長門守の娘なるべし。此の外に眞行院といへる法號は、過去帳に所見なし。龜尾記は如何なる書に據つて載せたるにや、未だ詳かならず。關屋政春の古兵談に、利長卿の御内に木村加兵衛と云ふあり。越前府中に被成御座時、加兵衛娘一向坊主に嫁す。此の坊主一揆を催し、堀左衛門殿の時分成敗に成り跡絶えたり。加兵衛娘一向坊主の子を腹に持ちて親里へ歸り、加兵衛方にて男子を産む。秀頼公と同時也。故に此の子を連れて御乳人に出で、後宮内卿と稱す。其の子は後に木村長門守と稱し、秀頼公に勤仕し出頭たり。秀頼公左大臣に被任時、諸太夫に被仰付、長門守に被成。身上は僅八百石なりといへども、平常の暮しは一萬石程の振廻といへり。乙卯五月二日於若江討死、歳二十四。加兵衛跡は木村主計とて、二千石賜はり、利長卿無類の出頭たりしかど、逝去の

後利常卿へ御暇申上げ、甥長門守を見次申度とて大坂籠城し、卯五月七日城を出で潜に加州へ來り、利常卿へ再勤すとあり。されば長門守が娘も、此の時などに主計に従うて金澤へ來り、長屋七郎右衛門に嫁したるならんか。或は云ふ。眞行寺の開基州岩は、則ち此の妻女にて、州岩は尼に成りたる名なりともいへり。

○二十人町

元祿六年の土帳に、小立野二十人町或は小立野足輕町・二十人町など載せたり。延寶金澤圖には、明興足輕等の組地なるよし記載すれど、後には持筒足輕の組地とすといへり。按ずるに、舊藩國初以來、輕卒は二十人或は五十人を一組とす。故に其の組地をば、二十人町或は五十人町と呼べり。天正十二年藩士千福長左衛門を足輕頭に命ぜられ、鐵炮足輕二十人を預けらる。是其の初歟といへり。拾遺溫故雜帖に載せたる太田但馬守の書簡に、

態申入候。仍てつぼうの者廿人被仰付候條、可然御用にもた候ものを可有御抱旨御意候。其御心得可被成候。猶此方へ御越之節以面可申入候。恐々謹言。

極廿二日

太田但馬長知判

千長左様人々々

○公事場町

此の地は、舊藩公事場付足輕の組地也。故に公事場町と呼べり。延寶金澤圖に、公事場附足輕何人と載せたり。二十人町の繼きなる故に、今二十人町へ合併す。

○白山町

舊名を波着寺門前と云ふ。元と波着寺の門前地なる故なり。波着寺の開祖空照法印は、白山比咩神社再興の命を奉じ、彼の境内に寓居し、白山の神殿を再興す。此の由縁を以て波着寺の山號を或は白山と號す。依つて門前地を近き頃より白山町とは呼べりといへり。

○奉登山波着寺

眞言宗也。開祖安養坊空照は、越前國足南郡波着寺に住持たる處、大納言利家卿府中に在城の頃、祈禱所にて殊に御懇なりし故に、加州へ入部し給ふ後召寄せられ、今兼六園の地に寺地を賜ひ、堂宇を建立する處、元和五年召上げられ、小立野今の地へ移轉命ぜられし由寺記に載せたり。加藤蘭